

諮問庁：厚生労働大臣

諮問日：令和2年5月22日（令和2年（行情）諮問第267号）

答申日：令和3年6月7日（令和3年度（行情）答申第76号）

事件名：特定法人が作成した自閉症の追跡調査の不開示決定（不存在）に関する件

答 申 書

第1 審査会の結論

「特定法人が作成した自閉症の追跡調査（障害児・発達障害者支援室に対する開示請求）」（以下「本件対象文書」という。）につき、これを保有していないとして不開示とした決定は、妥当である。

第2 審査請求人の主張の要旨

1 審査請求の主旨

行政機関の保有する情報の公開に関する法律（以下「法」という。）3条の規定に基づく開示請求に対し、令和元年12月27日付け厚生労働省発障1227第15号により、厚生労働大臣（以下「処分庁」又は「諮問庁」という。）が行った不開示決定（以下「原処分」という。）につき、取消しを求める。

2 審査請求の理由

開示請求に係る行政文書を管理している。

第3 諮問庁の説明の要旨

1 本件審査請求の経緯

審査請求人は、令和元年10月30日付け（同月31日受付）で、処分庁に対して、法3条の規定に基づき、「特定法人が作成した自閉症の追跡調査（障害児・発達障害者支援室に対する開示請求）」の開示請求を行った。

これに対して、処分庁が原処分を行ったところ、審査請求人は、これを不服とし、令和2年2月3日付け（同月4日受付）で本件審査請求を提起したものである。

2 諮問庁としての考え方

本件審査請求に関し、事務処理上作成又は取得した事実はなく、実際に保有していないため、不開示とした原処分は妥当であり、これを維持することが妥当であると考えます。

3 理由

（1）本件対象文書を保有していないことについて

本件審査請求に係る開示請求は、「特定法人が作成した自閉症の追跡

調査（障害児・発達障害者支援室に対する開示請求）」の開示を求めるものである。

障害児・発達障害者支援室では、特定法人が作成した自閉症の追跡調査については、事務処理上作成又は取得したことはなく、本件対象文書についての文書を保持していないため、不開示とした原処分は妥当であると考ええる。

また、本件審査請求に当たり、他に開示対象文書がないか探索したが、他に該当するものは確認されなかった。

（２）審査請求人の主張について

審査請求人は、審査請求書の中で、「開示請求に係る行政文書を管理している。」として原処分の取消しを求めているが、これに対する諮問庁の説明は上記（１）のとおりであるため、審査請求人の主張は失当である。

４ 結論

以上のとおり、文書不存在を理由として不開示決定を行った原処分を維持することが妥当であると考ええる。

第４ 調査審議の経過

当審査会は、本件諮問事件について、以下のとおり、調査審議を行った。

- ① 令和２年５月２２日 諮問の受理
- ② 同日 諮問庁から理由説明書を收受
- ③ 令和３年５月１４日 審議
- ④ 同月３１日 審議

第５ 審査会の判断の理由

１ 本件開示請求について

本件開示請求は、本件対象文書の開示を求めるものであり、処分庁は、本件対象文書を作成又は取得したことはなく、保有していないため、不開示とする原処分を行った。

これに対し、審査請求人は開示請求に係る行政文書を管理しているとして原処分の取消しを求めているところ、諮問庁は、原処分は妥当であるとしていることから、以下、本件対象文書の保有の有無について検討する。

２ 本件対象文書の保有の有無について

（１）本件対象文書の保有の有無について、当審査会事務局職員をして、諮問庁に対し、改めて確認させたところ、諮問庁は、おおむね以下のとおり説明する。

ア 特定法人は文部科学省の所管団体であるところ、処分庁では当該文書を事務処理上作成又は取得したことはなく保有していない。

イ 念のため、障害児・発達障害者支援室の執務室内、書庫、倉庫及びパソコン上のファイル等を探索したが、本件対象文書の存在は確認で

きなかった。

- (2) 障害児・発達障害者支援室において本件対象文書を保有していないとする上記(1)の諮問庁の説明について、特段不自然、不合理な点はなく、これを覆すに足りる事情も認められない。

したがって、厚生労働省において本件対象文書を保有しているとは認められない。

3 本件不開示決定の妥当性について

以上のことから、本件対象文書につき、これを保有していないとして不開示とした決定については、厚生労働省において本件対象文書を保有しているとは認められず、妥当であると判断した。

(第5部会)

委員 藤谷俊之, 委員 泉本小夜子, 委員 磯部 哲